

## 【2021年度 関東ブロック会議報告書】

幹事館名	多摩六都科学館
開催日時	2022年2月3日（木）
開催方法 参加人数	オンライン開催 20組織（関東ブロック：17館、関東ブロック以外：2館、および連携協事務局）
<p>報告内容：</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>昨年度は書面開催だったため今年度は対面での開催も検討したが、新型コロナウイルスの感染状況が未だ不安定であることからオンライン開催とした。議題は多くの館が取り組みを迫られているオンラインプログラムの開催や施設の予約制の導入について取り上げ、事前に行ったアンケートの結果をもとに事例発表・意見交換を行った。</p> <p>先進的な取り組みの紹介にとどまらず、施設のネット環境や人員体制による限界などの困難な状況についても共有でき、なかなか知る機会のない他館の具体的な実施体制や工夫に触れられる貴重な機会となった。</p> <p><b>【開催報告】</b></p> <p>1. 参加館自己紹介（1館3分程度で、コロナ禍での館の取り組み状況についても紹介）</p> <p>2. アンケート結果報告および事例発表</p> <p style="padding-left: 20px;"><b>【事例1】</b> 三菱みなとみらい技術館 「一般向け・学校向けのオンライン授業～その違い・課題～」</p> <p style="padding-left: 20px;"><b>【事例2】</b> 千葉市科学館 「事前予約制の導入とその課題」</p> <p>オンラインプログラムは回答した館の8割近くが何等か実施しており、その内の75%が成果ありと答えている。事例発表された三菱みなとみらい技術館は対面で行っていたプログラムを全てオンラインに切り替えるという大胆な取り組みをしているが、他の館でもターゲットを全国規模に広げたなど、オンラインでの発信をやってみたことによる意識変化が起こっていることが伺えた。一方でネット回線の脆弱さや機器不足といった困難を抱えたまま何とか工夫を重ねて発信を続けている館も少なくなかった。全体的に、行政等外部からオンライン発信が期待されているものの、現場の予算・人員体制は従来と変わらず、開館業務と並行してどうやって取り組むかという課題を抱えている館が多かった。また、科学の学びに有効な直接体験やコミュニケーションの要素をどう取り入れるかといった課題もあげられた。</p> <p>予約制については、約半分の館が入館・プログラム等何らかに導入していたが、自館専用のシステムを使用しているところは15%程度で、他は既存のオンライン予約サービスの利用が多く、一部は電話などアナログな手段も併用していた。予約制の導入の成果は7割弱があったと回答しており、来場者数のコントロールへの効果があげられていた。千葉市科学館からはコロナ禍を機に増やしたウェブの予約方法について事例紹介があったが、多くのプログラム予約を効率よく処理できるようになったものの、意外と手作業での処理も必要なこと、無断キャンセルへの対応、ネットが使えない人への配慮など、課題も残されている。予約制を導入しなかった館も適当なシステムがない・予算や人材の不足といった条件を挙げており、科学館の実情にあったウェブ予約システムを求める声が多かった。</p>	